2022年5月
清水一智子

ロータリー月例報告
留学先:イタリアFirenze

留学生活が始まり2ヶ月がたち、毎日幸せを噛み締めています。私は3年前に一度短期留学を経験しています。その時は大学を卒業してすぐで、初めて親元を離れての海外での生活だったので、留学期間の2ヶ月間は生活するだけで必死でホームシックもあり、実りのあるものだったのかと言われればyes!!と言うのは難しいです。しかしこの度の留学生活は、語学、歌のレッスン、生活、文化の勉強など、イタリアでなければ学ぶことのできない貴重な経験と学びを実感しています。

5月のフィレンツェは地中海性気候の雨季から乾季への移り変わりの時です。晴れる日がグッと多くなり、昼間は30度近くまで気温が上がり、太陽の力もとても強く感じられます。空気が乾燥しているせいか、日本よりも紫外線が強いように感じるためサングラスが欠かせません。学校の授業以外に不定期に行われる課外授業ではPiazza Michelangelo 、Giardino dell'Iris 、Pisa、Giardino Boboli、Giardino bardini、 Parazzo vecchioへ行きました。観光で行く時と違い、文化・歴史専門の教授が解説をしてくれるため、毎回とても楽しいです。初めて参加した時は殆どの説明が分からず、途中で挟まれる英語の説明で少し分かれば良い方だったのですが、今日の最後の課外授業では、半分近い説明を聞き取ることができました。まだまだ難しい言い回しや知らない単語だらけではありますが、この調子で頑張っていきます。

週に1回行われる歌のレッスンでは厳しく指導していただいています。毎回、レッスンが終わるととても気持ちが落ち込み、反省点がいっぱいで悔しい気持ちでいっぱいになります。レッスンを毎回録音し、途中でわからなかった単語や話の内容を聞き取り、紙に書き出して辞書をひき、その録音を聞きながら練習をします。この方法でレッスンを重ねていくと、毎回新しい単語、特に音楽をする時に必要な専門的な言葉を覚えることができるのですごく良い勉強になっています。歌の技術的な問題も細かく指導してくださいます。普通、私のような外国人留学生だとなかなかきちんと指導してくれる先生は少ないそうです。私は本当に良い先生に出会えたなと思いますし、改めて今までの人とのつながりと周りの方々のサポートに感謝したいです。日本で歌を勉強していた時は、試験やコンクールに向けて大きなアリアを練習し、仕上げるということがほとんどでした。しかし今はヨーロッパ、特にドイツやオーストリアで主流とされているバッハとヘンデル、モーツァルトをメインに、音楽の基礎を学んでいます。特にバッハは一番重要なのにも関わらず、日本では深く勉強する声楽家があまりいません。どの時代の音楽を演奏する時も、全ての基本になるため、とても難しいですが一から学び直す覚悟で取り組んでいます。

●ピサでの集合写真

●ピサcamposantoのフレスコ画
Camposantoは神聖な場所、お墓です。12世紀に設立され、第二次世界大戦によって爆撃を受けましたが、現在に至るまで修復作業が行われてきました。天国と地獄がはっきりと描かれています。

●フィレンツェ、ペルゴラ劇場
オペラ座形式の馬蹄形でつくられた最古の劇場と言われています。オペラ、フィガロの結婚を観劇してきました。